

令和7年度 HP掲載用 必履修科目 シラバス一覧

(PDFファイルのしおりに各教科のページ名があります)

No.	必履修科目名
1	現代の国語（1年）
2	言語文化（1年）
3	地理総合（1年）
4	歴史総合（1年）
5	公共（2年）
6	数学Ⅰ（1年）
7	科学と人間生活（2年）
8	物理基礎（ア…物・化選択者）（2年）
9	物理基礎（イ…化・生選択者）（2年）
10	化学基礎（2年理系）
11	生物基礎（1年）
12	体育（1年）
13	体育（2年）
14	体育（3年）
15	保健（1年）
16	保健（2年）
17	音楽Ⅰ（1年）
18	美術Ⅰ（1年）
19	書道Ⅰ（1年）
20	英語コミュニケーションⅠ（1年）
21	家庭基礎（1年）
22	情報Ⅰ（1年）
23	産業社会と人間（1年）

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
国語	現代の国語	1	2	必修
教科書	精選 現代の国語(東京書籍)			
使用教材	よむナビ1(いいずな書店)			
学習の目標				
①知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。			
②思考・判断・表現	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・論述、発表、話し合い、討論、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	【読む】 「まだ知らない自分に出会う」	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。
	言語活動	・問いかけや反対意見に対する答え、意見と根拠(理由)を確認しながら読んで、筆者の読書に対する考えを理解している。
	中間考査	・対話によって「まだ知らない自分」に出会ったエピソードを、自己の体験を振り返ってまとめ、話し合おうとしている。
	【読む】 「水の東西」 【話す・聞く】 発想を広げて課題を見つける 【書く】 新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる 期末考査	・比較を通じて、日本と西洋の水に対する捉え方の違いを読み取っている。 ・思考・発想を整理しながら広げるための方法を理解し、さまざまな観点からアイディアを出して整理している。 ・意見文の学習を通して、情報を取捨選択し、自分の生活と関連付けて問いを作り、それに対する自分の考えを持ち、身の回りの意見文の工夫にも関心を広げようとしている。
2学期	【話す・聞く】 本を紹介する	・紹介する本の内容や、その本を紹介する理由が的確に伝わる構成を意識し、聞き手の反応を確かめながら話している。
	【読む】 「まちの豊かさとは何か」 【書く】 調べた情報を資料にまとめる 中間考査	・本を紹介し合うことで、新しい本の魅力を知り、読書の幅を広げようとしている。 ・筆者の体験や具体例と考えの変化に注目しながら読んで、「まちの豊かさ」についての筆者の考えを読み取っている。 ・説明資料の学習を通して、必要な情報を収集・整理・吟味し、伝えたいことを明確にししながら説明資料を作成する方法を知ろうとしている。
	【読む】 「真の自立とは」「自立と市場」「共鳴し引き出される力」 ▼文章を読み比べるために	・筆者の主張と、「自立」について書かれた他の文章とを相互に関連付けながら、自分の考えを深めている。
	【書く】 異なる文章を読み比べて自分の意見を書く 期末考査	・同じテーマの文章を読んで、違いを整理・比較したうえで、説得力のある自分の考えを持っている。
3学期	【読む】 「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 【書く】 論証してレポートを書く ▼引用の方法 【話す・聞く】 探求したことを発信する 期末考査	・筆者の考える『「自らの人生を生きる」という行為』について「人工知能」と対比して読み取り、「人工知能」が椅子に座れない理由を理解している。 ・「問い」を立て、論証の方法を工夫し、「答え」を導き、レポートに必要な項目を理解して、形式や体裁を整えている。 ・発表において、形式に応じて資料や視聴覚機器を効果的に使うなど、聞き手に伝わりやすい発表の仕方を工夫して話している。

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
国語	言語文化	1	2	必修
教科書	言語文化(数研出版)			
使用教材	『学ぶぞ古文と漢文』『学ぶぞ古文と漢文基本練習ノート』(尚文出版)			
学習の目標				
①知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
②思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。			
②思考・判断・表現	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・論述、発表、話し合い、討論、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	古文編 「児のそら寝」 古典チェックポイント1・2	・古語の品詞や活用について理解し、古語辞典を引くことができる。 ・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文のリズムに慣れるとともに、正しく音読することができる。 ・古文に親しみを持ち、話の面白さを理解している。 ・用言の活用について理解している。
	中間考査	
	漢文編 漢文チェックポイント1 「矛盾」	・中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史について、理解している。 ・漢文の特色や訓読のきまりを理解し、古典を学ぶ意味について考えを深めている。 ・漢文の内容を読み取り、故事成語の意味を理解している。
	古文編 「ある人、弓射ることを習ふに」 古典チェックポイント3 言語活動 期末考査	・『徒然草』とその作者について、理解を深めている。 ・文法事項等を踏まえて本文を口語訳し、筆者の考えを理解している。 ・作者の処世観を理解し、自らの経験を振り返り、文章にまとめ、発表を通して自分の考えをさらに深めようとしている。
2学期	近現代編 「羅生門」 言語活動	・小説の読み方の基本(登場人物や場面の把握、心情の変化への着目)を理解し、登場人物の心情の変化を読み取り、人間関係の在り方について自分の考えを持っている。 ・情景描写や比喻表現、語り手の役割などを的確に把握している。 ・翻案作品の「羅生門」と原作の「今昔物語集 羅城門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと」を比較し、その変更点が翻案作品の創作性にとってどのような意味を持つのか自分の考えをまとめている。
	古文編 「芥川」	・文法事項を踏まえて本文を口語訳し、和歌に詠み込まれた情景や心情を読み取っている。
	中間考査	
	漢文編 漢詩 漢文チェックポイント5	・漢詩のきまりを理解し、それぞれの漢詩の形式と押韻を指摘している。 ・漢詩にうたわれた情景や心情を読み解っている。
	期末考査	
3学期	古文編 「門出」「帰京」 言語活動	・文法事項を踏まえて本文を口語訳し、和歌に託された心情を読み取っている。 ・日本文学の特徴を理解している。 ・作者の人物・描き出された心情を読み取っている。
	期末考査	

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
地理歴史	地理総合	1	2	必修
教科書	高等学校新地理総合[帝国書院]			
使用教材	新詳地理資料COMPLETE2025[帝国書院]、新詳高等地図[帝国書院] 高等学校新地理総合ノート[帝国書院]			
学習の目標				
①知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題を理解するとともに、地図や地理情報システムを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。			
②思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味、特色や相互の関連を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想する力や、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養うとともに、多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
評価の観点				
①知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			
②思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	次の観点から総合的に評価する。			
②思考・判断・表現	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
③主体的に学習に取り組む態度	・論述、発表、話し合い、討論、レポート ・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。
	中間考査	
	第2章 結び付きを深める現代世界 第2部 国際理解と国際協 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	・現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ・地球上でみられるさまざまな地形の特徴や成因について理解し、生活や人間活動とどのように関わっているか、多角的・多面的に考察することができる。
	期末考査	
2学期	2節 世界の気候と人々の生活	・気温や降水のしくみと分布の特徴について理解し、気候が生活や人間活動に与える影響やどのように関わっているかについて、多角的・多面的に考察することができる。
	中間考査	
	3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活	・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
	期末考査	
3学期	第2章 地球的課題と国際協力	・地球的課題の傾向性や関連性等について大観し理解するとともに、多面的・多角的に考察し、表現する。地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望	・自然災害を基に自然環境の特色と自然災害への備えの重要性について理解する。ハザードマップ等から情報を収集・読み取り・まとめる技能を身に付ける。 ・防災について自然及び社会的条件との関わり、持続可能な地域づくりに着目して主題を設定し、自然災害への備えや対応を多面的に考察し、表現する。 ・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
	期末考査	

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
地理歴史	歴史総合	1	2	必修
教科書	明解 歴史総合[帝国書院]			
使用教材	明解歴史総合ノート[帝国書院]、「明解歴史総合図説 シンフォニア」[帝国書院]			
学習の目標				
①知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
評価の観点				
①知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			
②思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	次の観点から総合的に評価する。			
②思考・判断・表現	日常の授業態度、発問に対する回答の評価、課題等の提出状況、単元点評価・考查点評価			
③主体的に学習に取り組む態度				

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結びつく世界 2章 欧米諸国における近代化 中間考査	・18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解している。 ・市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について、追究しようとしている。
	3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア 期末考査	・国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 ・欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
2学期	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり 中間考査	・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。 ・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。 ・ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。
	3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本 期末考査	・世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ・世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。
3学期	4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と日本 期末考査	・冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。 ・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。

令和7年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
公民	公共	2	2	必修
教科書	高等学校公共(教育図書)			
使用教材	高等学校公共ワークノート(教育図書)、最新図説公共(浜島書店)			
学習の目標 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	公共の学習を通じて、現代社会の諸課題についての基礎的・基本的な知識や技能を身につける(①)とともに、課題の解決のために主体的に考え、判断する能力を育む(②)ことを目指す。現代社会の諸課題に対する見方や考え方はさまざまあり、多面的であることを重視し、その複数性のなかで生徒が自分で考え、対話を通じて、合意形成を目指す公共的存在としての能力を養う(②)。 これを達成するために、さまざまな現代社会の諸問題を身近な話題について考えるテーマ学習や主体的で対話的な授業を通して、生徒が社会を構成する参画者の一人であることの自覚を深める(③)ことを目標とする。			
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	①自分自身が公共的空間の主体となり、自分のキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結びつくことについて理解できる。 ①法、政治、経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識・技能を身につけることができる。 ②地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ②法、政治、経済を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現できる。 ③よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めることができる。			
評価の方法 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	次の観点から総合的に評価する。 日常の授業態度、発問に対する回答の評価、課題等の提出状況、評価問題・定期考査			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1章 公共の原 1 公共と人 1 人は一人では生きられない 2 人はどのようにつながるのか 3 自由と正義の実現を目指して 4 対話から生まれる公共 5 日本の公共思想 2 公共と倫理 1 功利主義と義務論 2 水俣病を考える 3 地球温暖化問題 4 誰が医療を支えるのか 3 公共の基本原理 1 生徒会予算をどう分配するか 2 意見が分かれたときにどう決めるか 3 民主主義の歴史 4-1 日本国憲法の三つの原理 4-2 基本的人権の尊重、平等・自由・義務 5-1 大学入試と男女差別 5-2 なぜ女性医師が日本では少ないのか 6 表現の自由とヘイトスピーチ	・青年期が人生において持つ意味を理解している。 ・アイデンティティの確立と、画一性による他者排除の相違について理解している。 ・アーレントの複数性・活動・公的領域などの概念を理解している。 ・公共的空間とはどのような空間か自分の体験や具体的な事例に基づき思考している。 ・自らの自我について、マズローやエリクソンの理論の基づき適切に表現している。 ・多様な人間と協働する公共的空間の担い手としての自覚を深めている。 ・功利主義と義務論の相違について理解できている。 ・感性和理性の相違について理解している。 ・「最大多数の最大幸福」の弊害について理解できている。 ・ベンサムとミルの功利主義の相違について理解している。 ・社会現象や政策判断を、功利主義、義務論の考え方にに基づき表現している。 ・功利主義の課題をどう克服するか質的功利主義などを手掛かりに思考している。 ・義務論に基づく社会がいかにして可能か思考している。 ・学習した内容を自らの倫理観、過去の行為に照らし合わせ、思考している。
2学期	第2章 現代社会の諸課題 1 法 1 法と社会 2-1 多様な契約 2-2 消費者の権利と責任 2-3 日本の司法制度 2-4 国民の司法参加 2 政治 1-1 選挙と政治参加 1-2 公正な世論の形成 2-1 国会と内閣 2-2 地方自治 3 国家主権と領土問題 4-1 安全保障と防衛 4-2 21世紀の世界情勢 5 国際社会と日本 3 経済 1 職業選択 2-1 雇用と労働 2-2 労働者の権利 3-1 財政の役割 3-2 租税の仕組みと国債 4 少子化と社会保障 5 市場経済の役割と限界 6-1 金融のはたらき 6-2 日本銀行と金融政策 7-1 グローバル化と経済統合 7-2 格差は正と多文化主義	・社会契約説、自然権、三権分立など民主政治の重要概念を理解している。 ・マグナカルタから世界人権宣言にいたる人権をめぐる世界史の流れを理解している。 ・個人と国家の関係を契約という視点から捉え思考、表現している。 ・自らが持っている人権(自然権)について自覚を深めている。 ・大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点を理解している。 ・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法の3つの基本原理について理解している。 ・憲法改正の手続きを理解している。 ・違憲審査権と憲法の関係について理解している。 ・立憲主義の意義について適切に表現できている。 ・憲法改正の是非について、自ら思考している。 ・憲法で規定された国民の権利と義務について、体系的に理解している。 ・自由権と社会権の相違について表現している。 ・権利の衝突に際し「公共の福祉」の概念が、どのような役割を果たすか思考している。 ・さまざまな基本的人権について、権利主体として自覚しつつある。 ・民主主義とは、国民に主権があるという基本的な考え方にに基づき、これを実現するためにさまざまな選挙制度や法律があることを理解し、その内容を読み取っている。 ・地方自治で住民がもつさまざまな権利、地方自治体が抱えている課題などについて表現している。 ・地元地域の地方自治に関心を持ち、どのような政策を推進しようとしているか知ろうとする意欲がある。
3学期	第3章 持続可能な社会へ 1 演劇で表現する 2 地域社会と共に学ぶ 3 バリアフリー社会の実現を目指して 4 SDGsの実現のため私たちができること	・社会課題の調査、表現方法、課題解決に向けた協働の方法などについて学習している。 ・公共で学習した内容や課題をもとに見方・考え方をはたらかせ、具体的な社会課題を見出し、これを適切に表現している。

令和7年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
数学	数学Ⅰ	1	3	必修
教科書	高等学校 数学Ⅰ（数研出版）			
使用教材	新課程 クリアー数学Ⅰ＋A（数研出版）			
学習の目標				
①知識・技能	・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付ける。			
②思考・判断・表現	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力や、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。			
②思考・判断・表現	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力や、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養おうとしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・定期考査、課題テスト、発表、話し合い、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・授業形態に応じた学習態度、レポート			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1章 数と式 第1節 式の計算	・整式の加法・減法・乗法の計算ができる。 ・因数分解ができる。
	第2節 実数	・数を拡張した範囲のなかで、四則演算ができる。 ・根号を含む加法・減法・乗法の計算ができる。 ・分母の有理化ができる。
	中間考査	
	第3節 1次不等式	・不等式の性質を理解し、1次不等式や連立1次不等式が解ける。
	第2章 集合と命題	・命題や条件について、集合との関係を調べ、真偽を明らかにすることができる。
2学期	期末考査	
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	・放物線の形や軸、頂点について理解し、平方完成を利用して2次関数のグラフをかくことができる。
	第2節 2次関数の値の変化	・2次関数のグラフを通して、関数の値の変化を考察し、関数の最大値・最小値を求めることができる。
	第3節 2次方程式と2次不等式	・因数分解や解の公式を使って、2次方程式が解ける。 ・2次関数のグラフとx軸との位置関係から、2次不等式の解を求めることができる。
	中間考査	
3学期	第4章 図形と計量 1. 三角比	・直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができる。 ・三角比の相互関係を理解する。 ・角を鈍角にまで拡張した三角比の値が計算できる。
	2. 三角形への応用	・正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角比を三角形の面積公式を理解し、活用できる。
	期末考査	
	第5章 データの分析	・統計の基本的な考え方を理解し、それらを用いてデータを整理・分析をし傾向を把握できる。
	期末考査	

令和7年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	科学と人間生活	2	2	選択必修
教科書	改訂科学と人間生活〔第一学習社〕			
使用教材	改訂ネオバルノート科学と人間生活〔第一学習社〕			
学習の目標				
①知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			
評価の観点				
①知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。			
②思考・判断・表現	自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			
③主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、課題テスト、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・論述、発表、話し合い、討論、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	序章 科学技術の発展 第1章 物質の科学 第2節 衣料と食品 ①身近な繊維 ②繊維の構造と染色 ③天然繊維 ④化学繊維 ⑤食品中のおもな栄養素 中間考査	・科学技術の進歩・発展について情報技術の発展を例に理解できる。 ・衣服などに用いられる繊維の分類や性質などを理解できる。 ・繊維の染まりやすさが繊維の構造に関係していることを理解できる。 ・天然繊維の構造や性質、用途などを理解できる。 ・化学繊維の種類や性質、用途などを理解できる。 ・生命活動に必要な栄養素を食品から得ていることを理解できる。
	⑥炭水化物 ⑦タンパク質 ⑧脂質とその他の栄養素 第2節 微生物とその利用 ①身近な微生物 ②微生物の発見 ③生態系内の微生物(1) ④生態系内の微生物(2) 期末考査	・炭水化物の分類と構造、性質、はたらきを理解できる。 ・タンパク質の構造や性質、はたらき、検出反応などを理解できる。 ・脂質の構造とはたらき、その他の栄養素の種類やはたらきが理解できる。 ・微生物と人間生活とのかかわりについて論理的に思考できる。 ・微生物の発見について、科学的、論理的に理解している。 ・生態系内の微生物に関心をもち論理的に判断できる。 ・植物体内に進入して生活する微生物についての確に表現できる。
2学期	⑤微生物の利用 ⑥食品と微生物(1) ⑦食品と微生物(2) ⑧医薬品と微生物 ⑨微生物の利用の広がり 中間考査	・発酵食品の製造に利用される微生物を学習し、理解している。 ・身近にみられる発酵食品と微生物とのかかわりについての確に表現できる。 ・微生物によってつくられた医薬品がどのように貢献してきたか理解している。 ・メタン菌などのエネルギー資源の生産や環境浄化における微生物の利用について理解している。
	第1節 熱の性質とその利用 ①温度と熱運動 ②熱容量と比熱 ③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生 ⑤エネルギーの移り変わり ⑥熱の仕事への変換 ⑦エネルギー資源の有効活用 期末考査	・物体の温度と構成粒子の熱運動との関係を理解できる。 ・物体のあたたまりやすさ、あたたまりにくさを量的に捉え理解できる。 ・高温の物体から低温の物体への熱の伝わり方を理解できる。 ・仕事とエネルギーの関係を理解できる。 ・さまざまな形態のエネルギーが互いに移り変わることを理解できる。 ・熱を仕事に変えるしくみについて理解できる。 ・省エネルギーの取り組みを知り、新しいエネルギー資源の開発を理解できる。
3学期	第1節 自然景観と自然災害 ①日本列島のなりたち ②火山活動と地表の変化 ③火山災害と防災 ④地震災害と地表の変化 ⑤地震災害と防災 ⑥水のはたらきと地表の変化 ⑦気象災害と防災 第5章 これからの科学と人間生活 期末考査	・日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解できる。 ・火山の噴出物、噴火の原因、火山の形とマグマの関連性、火山活動について、理解できる。 ・火山の災害と防災、火山の噴火の被害や二次災害、火山噴火の予知と防災について、理解できる。 ・地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について理解できる。 ・地震が直接及ぼす被害や地震による二次災害、地震の予知と防災について、理解できる。 ・河川のはたらきや海水のはたらきによって形成された地形について、理解できる。 ・気象災害と防災について関心をもち、豪雪、台風、集中豪雨、土砂災害など、理解できる。 ・学習した科学技術を踏まえて、科学と人間生活とのかかわり方について考察できる。

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
理科	物理基礎A	2	2	選択必修
教科書	新編物理基礎 [数研出版]			
使用教材	新課程リードLightノート物理基礎 [数研出版]			
学習の目標				
①知識・技能	基本的な物理法則を理解し、法則を使って日常現象で起こり得る現象を解析的に理解できるようにする。			
②思考・判断・表現	物理現象の規則性や法則を観察、実験などを通して探求し、それらを日常生活と関連づけて考察できるようにする。			
③主体的に学習に取り組む態度	生活の中で用いられている電気や磁気の性質を観察、実験などを通して探求し、それらへの関心を高めるとともに、基本的な概念や法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点				
①知識・技能	物理法則を理解し、法則を使って日常現象を解明し、説明することができる。			
②思考・判断・表現	実験方法を理解し、正しい操作で測定することができる。また、実験結果をグラフや図でわかりやすく表現することができる。			
③主体的に学習に取り組む態度	物理現象に対して、関心をもち、意欲的に探求しようとする。実験で得られたデータに基づいて法則化したり、日常現象と結びつけて一般化することができる。			
評価の方法				
①知識・技能	定期考査、小テスト、ワークシート、授業での発問			
②思考・判断・表現	定期考査での論述問題、授業での発問や発表、ワークシート			
③主体的に学習に取り組む態度	授業での学習態度、実験やグループ活動での参加する態度、提出物			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 中間考査	・運動している物体の平均の速さと瞬間の速さをグラフから読み取ることができる。 ・速度が変化する時、加速度の大きさと向きを求めることができる。 ・落下運動を測定、記録し重力加速度の意味を理解する。 ・水平投射の運動について、水平方向と鉛直方向に分けて解析する。
	第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつり合い 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存	・力の性質を理解し、ベクトルをつかって表現できる。 ・力がつり合う条件を力のベクトルを使って説明することができる。 ・加速度が、力に比例し、質量に反比例することを理解する。 ・実際の自然に近い摩擦力や空気抵抗について理解する。 ・浮力、大気圧についてその原理と現象を理解する。 ・仕事を(力の方向に動いた距離)で求めることを理解する。 ・運動エネルギーの定義を理解し、求めることができる。 ・位置エネルギーの定義を理解し求めることができる。 ・外部から仕事が行われない限り、力学的エネルギーが保存されることを理解し、これを応用して速度を求めることができる。
	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 期末考査	・仕事を加えて力学的エネルギーが変化しない場合、温度が上昇することを理解し、熱もエネルギーの一種であることを理解する。 ・熱エネルギーのやりとりによって起こる現象について、比熱や熱容量の考えを応用して現象を説明できる。 ・熱力学第一法則について理解し、実際の熱機関を考察することができる。
	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 重ね合わせの原理 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴	・波が伝わることは、振動が伝わることであり、媒質は移動しないことを理解する。 ・波の周期・振動数・速さから、波の基本式を導き出すことができる。 ・波の独立性と重ね合わせの原理を理解する。 ・音は空気の振動による縦波の現象であると理解する。 ・音を発する2つの振動数が近いときには、うなりが発生することを確認する。 ・定常波と速度の関係を理解し弦楽器の原理について考察する。 ・閉管と開管での定常波の波形を理解し、管楽器の原理について考察する。
	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電流の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものをみる 中間考査	・電流の正体は電子であり、電子の量と電流の大きさの関係について理解する。 ・オームの法則を利用して回路に流れる電流を算出できる。 ・導体、不導体、半導体を抵抗率と合わせて理解する。 ・抵抗を直列あるいは並列に接続した場合の合成抵抗が求められる。 ・交流の実行値と最大値の違いを理解する。 ・変電所や変圧器のはたらきについて理解する。 ・さまざまな波長と周波数の電波の利用方法について理解する。
3学期		

※ 物理基礎と物理の履修順序の関係から物理基礎を前半期に集中して実施

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
理科	物理基礎Ⅰ	2	2	選択必修
教科書	新編物理基礎[数研出版]			
使用教材	新編物理基礎準拠サポートノート[数研出版]			
学習の目標				
①知識・技能	・基本的な物理法則を理解し、法則を使って日常現象で起こり得る現象を解析的に理解できる。			
②思考・判断・表現	・物理現象の規則性や法則を観察・実験などを通して探究し、それらを日常生活と関連づけて考察できる。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生活の中で用いられている電気や磁気などの性質を観察・実験などを通して探究し、それらへの関心を高めるとともに、科学的な自然観をもつ。			
評価の観点				
①知識・技能	・物理法則を理解し、法則を使って日常現象を解明し、説明することができる。			
②思考・判断・表現	・実験方法を理解し、正しい操作で測定することができる。 ・実験結果をグラフや図でわかりやすく表現することができる。 ・実験で得られたデータに基づいて法則化したり、日常現象と結びつけて一般化することができる。			
③主体的に学習に取り組む態度	・物理現象に対して、関心をもち、意欲的に探究しようとする。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、小テスト			
②思考・判断・表現	・授業での発問や発表、プリント、レポート、ノート			
③主体的に学習に取り組む態度	・授業での学習態度、実験やグループ活動に参加する態度、提出物			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 中間考査	・運動している物体の平均の速さと瞬間の速さをグラフから読み取ることができる。 ・速度が変化する時、加速度の大きさと向きを求めることができる。 ・落下運動を測定して記録し、重力加速度の意味を理解する。
	第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつり合い 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 期末考査	・力の性質を理解し、ベクトルを使って表現できる。 ・力がつり合あう条件を力のベクトルを使って説明することができる。 ・加速度が力に比例し、質量に反比例することを理解する。 ・物体の運動について運動の法則を使って説明することができる。 ・自然に近い摩擦力や空気抵抗について理解する。 ・浮力や大気圧についてその原理と現象を理解する。
	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と物質の状態 2. 熱と仕事 中間考査	・仕事を力の方向に動いた距離で求めることを理解する。 ・運動エネルギーの定義を理解し、求めることができる。 ・位置エネルギーの定義を理解し、求めることができる。 ・外部から仕事が行われない限り、力学的エネルギーが保存されることを理解し、これを応用して速度を求めることができる。 ・仕事を加えて力学的エネルギーが変化しない場合、温度が上昇することを理解し、熱もエネルギーの一種であることを理解する。 ・熱エネルギーのやりとりによって起こる現象について、比熱や熱容量の考えを応用して現象を説明できる。 ・熱力学第一法則について理解し、実際の熱機関を考察することができる。
2学期	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 重ねあわせの原理 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 期末考査	・波が伝わることは振動が伝わることであり、媒質は移動しないことを理解する。 ・波の周期・振動数・速さから、波の基本式を導き出すことができる。 ・波の独立性と重ね合わせの原理を理解する。 ・音は空気の振動による縦波の現象であると理解する。 ・音を発する2つの振動数が近いときには、うなりが発生することを確認する。 ・定常波と速度の関係を理解し弦楽器の原理について考察できる。 ・閉管と開管での定常波の波形を理解し、管楽器の原理について考察できる。
	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界 1. スポーツと物理学 2. 防災と物理学 3. 自動車と物理学 学年末考査	・電流の正体は電子であり、電子の量と電流の大きさの関係について理解する。 ・オームの法則を利用して回路に流れる電流を算出できる。 ・導体、不導体、半導体を抵抗率と合わせて理解する。 ・抵抗を直列あるいは並列に接続した場合の合成抵抗が求められる。 ・交流の実行値と最大値の違いを理解する。 ・変電所や変圧器のはたらきについて理解する。 ・さまざまな波長と周波数の電磁波の利用方法について理解する。 ・エネルギーにはどのような種類があるか理解する。 ・エネルギーを変換することで利用される身近なものについて考察できる。 ・物理学が日常生活を支えていることを理解する。 ・物理学がスポーツを支えていることを理解する。 ・物理学が防災を支えていることを理解する。 ・物理学が自動車産業を支えていることを理解する。
	3学期	

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
理科	化学基礎ア＋化学	2	2＋2	選択必修／選択
教科書	新編化学基礎[数研出版]／新編化学[数研出版]			
使用教材	Visual Select 化学基礎ノート[数研出版]、リードLightノート化学[数研出版] サイエンスビュー新化学資料[実教出版]			
学習の目標 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。[化学基礎] ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。[化学] ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。[化学基礎][化学] ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。[化学基礎] ・化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。[化学]			
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。[化学基礎] ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。[化学] ・物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。[化学基礎] ・化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。[化学] ・物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。[化学基礎] ・化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。[化学]			
評価の方法 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	・定期考査、小テスト ・授業での発問や発表、プリント、レポート、ノート ・授業での学習態度、実験やグループ活動に参加する態度、提出物			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	化学基礎 序章 化学と人間生活 1. 物質の構成と化学結合 1-1 物質の構成 演示実験：混合物の分離 1-2 物質の構成粒子 中間考査	化学と人間生活とのかかわり、物質の探究、探究活動について ・化学が人間生活に果たしている役割や探究活動等について理解する。 ・元素、純物質、混合物、単体、化合物について理解する。 ・混合物の分離法について理解する。 ・物質の三態と熱運動について理解する。 ・原子の構造を理解する。 ・物質が原子、分子、イオンから構成されていることを理解する。 ・元素の周期律と周期表を理解する。
	1-3 粒子の結合 2. 物質の変化 2-1 物質量と化学反応式 生徒実験： 化学反応における量的関係 期末考査	・イオン結合とイオン結晶について理解する。 ・共有結合と分子について理解する。 ・共有結合の結晶について理解する。 ・金属結合と金属について理解する。 ・原子量、分子量、式量について理解する。 ・物質量について理解する。 ・溶液の濃度の表し方を理解する。 ・化学反応式とその量的関係について理解する。
	2-2 酸と塩基の反応 生徒実験：中和滴定 2-3 酸化還元反応 中間考査	・酸、塩基の水溶液の性質について理解する。 ・pHについて理解する。 ・中和反応と塩の性質について理解する。 ・中和滴定の実験を通して中和反応の定量的な関係を理解する。 ・酸化還元反応を電子の移動の観点で理解する。 ・酸化数、酸化剤、還元剤について理解する。
	2学期 化学 2. 物質の変化 2-2 電池と電気分解 1. 物質の状態 1-1 固体の構造 動画：結晶格子 期末考査	・金属のイオン化傾向と電池について理解する。 ・金属の製錬について理解する。 ・電池のしくみやその量的関係について理解する。 ・電気分解のしくみやその量的関係について理解する。 ・金属結晶の種類や充填率、密度、アボガドロ定数との関係を理解する。
3学期	1-2 物質の状態変化 1-3 気体 1-4 溶液 期末考査	・物質の状態変化は熱の出入りによる粒子の熱運動がもとになっていることを理解する。 ・気液平衡の概念をもとに蒸気圧や沸点について理解する。 ・ボイル・シャルルの法則や気体の状態方程式を理解する。 ・混合気体の全圧と分圧の関係を理解する。 ・実在気体と理想気体の違いについて理解する。 ・溶解のしくみや固体・気体の溶解度について理解する。 ・沸点上昇、凝固点降下、浸透圧について理解する。 ・コロイド溶液の性質について理解する。

令和7年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
理科	生物基礎	1	2	必修
教科書	新編 生物基礎[数研出版]			
使用教材	リードLightノート生物基礎[数研出版]、ニューステージ生物図表[浜島書店]			
学習概要 (目標・ねらい)	(1)生物と遺伝子 生物や生物体内の化学変化、生命現象を支える遺伝子やタンパク質などはたらきについて観察、実験などを通して探究し、生命を維持する共通の原理を理解する。 (2)生物の体内環境の維持 生物体内で見られる仕組みを理解し、生物は個体として安定した内部環境を維持することを理解する。 (3)生物の多様性と生態系 生物と環境とのかかわりについて理解し、自然界における生物集団についての見方や考え方を身につける。			
評価の観点				
①知識・技能	生物や生命現象に関心をもち、観察、実験などを行うとともに、科学の知識を身につける。			
②思考・判断・表現	生物や生命現象の中に問題を見だし、事象を論理的に考えたり、総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断できる。			
③主体的に学習に取り組む態度	生物の多様性と共通性に関心をもち、授業の予習や復習、課題学習に対し、主体的に取り組める。			
評価の方法	次の観点から総合的に評価する。 ・授業に対する意欲・態度 ・発問に対する回答の評価 ・観察・実験の技能・表現 ・評価問題・定期考査			

〈授業計画〉

学期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性	・多様性と共通性をもつことが、生物の特徴であることを理解する。 ・生物の構造と機能の基本単位が細胞であること、細胞小器官の構造とはたらきを理解する。
	2節 エネルギーと代謝	・原核生物から真核生物への進化、多様化への進化を理解する。 ・生命活動に必要なエネルギーの出入りや変換を理解する。 ・ATPの構造と働きについて理解する。
	中間考査	
	3節 呼吸と光合成	・光合成と呼吸のしくみとその意義を理解する。 ・光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源について理解する。
	第2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝情報とDNA	・遺伝子の本体がDNAであることを理解する。 ・DNAの遺伝子としての働きが塩基の相補性によることを理解する。 ・DNAの塩基配列に遺伝情報が存在し、遺伝情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。
2学期	2節 遺伝情報の複製と分配 期末考査	
	3節 遺伝情報の発現	・転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質合成のしくみについて学習する。 ・細胞は体細胞分裂によって体細胞を増やし、DNAを分配することを理解する。 ・それぞれの細胞ですべての遺伝子が発現しているわけではないこと、核の全能性と分化について理解する。
	第3章 ヒトの体内環境の維持 1節 体内での情報伝達と調節	・体液によって体内環境が一定に保たれ、体液の成分と循環のしくみ、それが血液凝固によって保持されることを理解する。
	中間考査	
	2節 体内環境の維持のしくみ	・血糖濃度の調節を理解する。 ・血液の循環を維持するしくみを理解する。 ・自律神経系、内分泌系のしくみと、それらの対抗的なはたらきやホルモン調節におけるフィードバックを理解する。 ・自律神経系と内分泌系の協調を理解する。 ・生体防御を担う免疫のしくみを理解する。
3学期	3節 免疫のはたらき 期末考査	
	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	・植生について、その構造を学習する。 ・植生が時間とともに移り変わる過程とそのしくみを理解する。
	2節 植生の分布とバイオーム	・気候条件に応じた特定の相親をもつ生物の集団が気温と降水量によって決まることを、世界のバイオームと日本のバイオームについて理解する。
	3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全	・生態系の構造、物質の循環とエネルギーの流れの違いを理解する。 ・生態系を、自然環境保全の観点から理解する。
	学年末考査	

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
保健体育	体育	1	3	必
教科書	アクティブスポーツ			
使用教材	なし			
学習の目標				
①知識・技能	・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにしている。			
②思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えることができるようにしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・実技テスト			
②思考・判断・表現	・発表、話し合い、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	集団行動	・集団行動の様式を身につけ、集団の約束やきまりを守り、機敏に的確に行動できる。
	体づくり運動	・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する ・各種の運動・スポーツ種目に関連する体力および健康に関連する体力を向上させる。
	・陸上競技	・自身の体力の状況に応じて目標記録を設定し、フォームや呼吸の仕方などを工夫して活動することができる。 ・仲間と協力して、自己の改善点や仲間のよい点を見つけ、課題解決に向けてのよりよい練習方法を考えることができる。
	体育理論 ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ	・世界でのスポーツの歴史を知るとともに、わが国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることについて説明できる。 ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を理解し、多様な関わり方によるスポーツ文化の変容について説明できる。
	期末考査	
2学期	・ソフトボール(男子) ・サッカー(男子)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	・バレーボール(女子) ・バドミントン(女子)	・チームおよび個人の課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	・柔道	・自己の能力に応じて技能を高め、相手の動きに対応した攻防ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や試合の工夫ができるようにする。
	・ダンス (柔道、ダンスから1種目選択、男女共習)	・表したいテーマを全身の動きで自由に表現する創作ダンスの特性を理解し、自己の能力に応じた課題をもって、いろいろなテーマによる即興表現を工夫したり、気に入ったテーマを作品にまとめたりして、みんなで楽しく交流し、発表することができるようにする。
	体育理論 ・オリンピックとパラリンピックの意義 ・スポーツが経済に及ぼす効果	・オリンピックとオリンピック、パラリンピックの意義や価値について説明できる。 ・スポーツが経済活動でどのような役割を果たしているか、説明できる。
3学期	バレー(男子)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	バスケ(女子)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	体育理論 ・スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツと環境	・ドーピングの高潔さを脅かす要因とスポーツとの関わりを理解する。スポーツにおける環境問題やスポーツと環境との調和について説明できる。

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
保健体育	体育	2	2	必修
教科書	アクティブスポーツ			
使用教材	なし			
学習の目標				
①知識・技能	・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解するとともに、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決する力を養う。			
②思考・判断・表現	・チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。			
③主体的に学習に取り組む態度	・周囲の安全に留意しながら主体的に活動に取り組むとともに、合意形成に貢献しようとしたり、互いに助け合い高め合おうとしたりすることができる。			
評価の観点				
①知識・技能	技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解しているか。勝敗を競う中で、チームや自己の課題を解決しようとしているか。			
②思考・判断・表現	・チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫しているか。自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるか。			
③主体的に学習に取り組む態度	・周囲の安全に留意しながら主体的に活動に取り組んでいるか。合意形成に貢献しようとしたり、互いに助け合い高め合おうとしたりしているか。			
評価の方法				
①知識・技能	・実技テスト			
②思考・判断・表現	・チームでの話し合い、学習カードの記載内容			
③主体的に学習に取り組む態度	・活動への取り組み状況、学習カードの記載内容			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	・体づくり運動 ・新体力テスト ・陸上競技 ・体育理論	・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する ・各種の運動・スポーツ種目に関連する体力および健康に関連する体力を向上させる。 ・自分の運動能力・体力を知る ・速く走るための技術とその練習方法を身につけることができる。 ・技能と体力の関係や技能の型の違い、練習方法、ルールの変化などを理解する。
2学期	・サッカー(男子) ・バドミントン(女子) ・柔道・ダンス (柔道、ダンスから1種目選択、男女共習) ・体育理論	・技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組む、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むことができるようにする。 ・技の名称や行い方を理解するとともに、攻防を展開すること、課題に取り組む中で考えたことを他者に伝えること及び柔道に主体的に取り組むことができる。 ・ダンスの用語、交流や発表の仕方、課題の解決方法、体力の高め方などを理解するとともに、表現や踊りを身につけて交流や発表をすることができる。 ・技能の上達過程、技能上達時の特徴、体の動きのしくみなどについて理解する。
3学期	・バドミントン(男子) ・バスケットボール(女子) ・体育理論	・技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組む、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むことができる。 ・目的に応じたトレーニング方法や筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法を理解する。

令和7年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
保健体育	体育	3	2	必
教科書	アクティブスポーツ2023			
使用教材	なし			
学習の目標				
①知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。			
評価の方法				
①知識・技能	①技能検査、授業での行動観察			
②思考・判断・表現	②学習カードの記載、話し合い、行動観察			
③主体的に学習に取り組む態度	③学習カードの記載、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	体づくり運動	・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流したりする。
	新体力テスト	・体の使い方を考えながら運動種目の計測を行い、測定結果をもとに、自身の体力の現状を知る。
	陸上競技(短距離走・リレー)	短距離走では、中間走の高いスピードを維持しながら、走りきることができる。リレーではスピードを活かし、次走者と前走者の距離を長くした状態でバトンを受け渡しできるようになる。
	選択授業① ソフトボール サッカー バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。互いに協力するとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
	体育理論	・一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などを理解する。
2学期	選択授業① ソフトボール サッカー バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、仲間と計画的な練習や企画・運営ができるようにする。
	選択授業② バレーボール バスケットボール バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、仲間と計画的な練習や企画・運営ができるようにする。
	体育理論	・個人の目的や、健康状態、年齢など様々な条件にあわせて、適切なスポーツライフの設計ができるようする。 ・一人ひとりが生涯を通じてスポーツに積極的にかかわることができるよう、身近な地域でのスポーツの状況や活動内容、課題などを理解する。
3学期	選択授業② バレーボール バスケットボール バドミントン (男女共習)	・チームの課題や自己の能力に応じた技能の向上、戦術・作戦を生かした攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、仲間と計画的な練習や企画・運営ができるようにする。

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
保健体育	保健	1	1	必
教科書	現代高等 保健体育(大修館)			
使用教材	現代高等保健体育ノート			
学習の目標				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて施行し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・課題レポートの提出及び定期考査			
②思考・判断・表現	・意見発表及び発問に対する回答内容			
③主体的に学習に取り組む態度	・日常の授業態度及び課題の提出状況			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	1単元 現代社会と健康 1、健康の考え方と成り立ち 2、私たちの健康のすがた 3、生活習慣病の予防と回復 4、がんの原因と予防 5、がんの治療と回復 6、運動と健康 7、食事と健康 8、休養・睡眠と健康 9、喫煙と健康	・日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。 健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解する。 ・現代の死因の大部分を占める生活習慣病について、原因とその予防に対する対策について理解する。 がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解する。 ・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解する。 ・健康を保持・増進するとともに、生活習慣病を予防するために、基本的な生活習慣である「食事」の意義や役割について理解する。 ・「食事」とともに、基本的な生活習慣としての「運動」を重視し、その役割や実践方法について理解する。 ・生活習慣としての「休養・睡眠」の、単に肉体の疲労回復にとどまらない今日的な捉えかたや、睡眠のリズムについて理解する。 ・喫煙者本人のみでなく、周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	期末考査	
2学期	10、飲酒と健康 11、薬物乱用と健康 12、精神疾患の特徴 13、精神疾患の予防 14、精神疾患からの回復 15、現代の感染症 16、感染症の予防 17、性感染症・エイズとその予防 18、健康に関する意思決定・行動選択 19、健康に関する環境づくり	・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 ・薬物乱用は、心身の健康に対して深刻な影響を与えることを理解し、絶対に薬物に手を出さない強い意志を身につける。 ・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて理解する。 ・精神疾患の予防と回復には、身体の手と健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて理解する。 ・感染症が発症する仕組みや、感染症の種類を知り、感染症の予防には適切な対策が必要であることについて理解する。 ・性感染症について正しい知識をもち、感染経路やその予防法について理解する。 ・健康に関する4つの要因を知り、健康を保持・増進するためには適切な意志決定や行動選択が必要であることを理解する。
	期末考査	
3学期	2単元 安全な生活 1、事故の現状と発生要因 2、安全な社会の形成 3、交通における安全 4、応急手当の意義とその基 5、日常的な応急手当 6、健康に関する環境づくり	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについて理解する。 ・交通事故の防止のために、車両の特性に応じた安全対策が必要なことを知り、交通事故には責任や補償問題が生じることについて理解する。 ・交通事故の防止のために行われている対策について知り、安全に暮らすための意識や行動について理解する。 ・応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や応急手当の正しい手順について理解する。 ・健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて理解する。
	期末考査	

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単 位 数	必 選 別
保健体育	保健	2	1	必修
教科書	現代高等 保健体育(大修館)			
使用教材				
学習目標				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他社に伝える力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点				
①知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。			
②思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて施行し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・課題レポートの提出及び定期考査			
②思考・判断・表現	・意見発表及び発問に対する回答内容			
③主体的に学習に取り組む態度	・日常の授業態度及び課題の提出状況			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	1. ライフステージと健康	・ライフステージと健康の関連について説明できる。
	2. 思春期と健康	・思春期における体の変化を女性と男性に分けて説明できるとともに、思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例を上げることができる。
	3. 性意識と性行動の選択	・性意識の男女差を、性的欲求のあらわれ方の違いを例にして説明できるとともに、性に関する情報が性行動の選択に及ぼす影響について、具体例をあげることができる。
	4. 妊娠・出産と健康	・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。また、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。
	5. 避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。
	6. 結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明でき、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。
	7. 中高年期と健康	・加齢にともなう心身の変化と高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例を挙げて説明できる。
2学期	8. 働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわり、働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。
	9. 労働災害と健康	・労働災害の種類とその原因について例を挙げて説明できる。また、労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。
	10. 健康的な職業生活	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例を挙げて説明できる。また、余暇を積極的にとることの意義について説明できる。
	11. 大気汚染と健康	・大気汚染の健康への影響を、原因物質の例をあげ説明することができる。
	12. 水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁の健康への影響を、原因物質の例をあげ説明することができる。
	13. 環境と健康にかかわる対策	・土壌汚染の健康への影響を、原因物質の例をあげ説明することができる。
	14. ごみの処理と上下水道の整備	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法、産業廃棄物の処理について説明できる。
	15. 食品の安全性	・ごみの処理の現状やその課題、上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。
3学期	16. 食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性と健康のかかわりについて説明できる。
	17. 保健サービスとその活用	・食品の安全性を確保するための行政や製造者、個人の役割について説明できる。
	18. 医療サービスとその活用	・保健行政の役割、保健サービスの活用について例をあげて説明できる。
	19. 医薬品の制度とその活用	・わが国における医療保険のしくみ、さまざまな医療機関の役割について説明できる。
	20. さまざまな保健活動や社会的対策	・医薬品の正しい使用方法について説明できる。
	21. 健康に関する環境づくりと社会参加	・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。

令和7年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
芸術	音楽Ⅰ	1	2	選択必修
教科書	音楽Ⅰ Tutti +			
使用教材	音楽研究ノート			
学習の目標				
①知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。			
②思考・判断・表現	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。			
③主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、搜索で表している。			
②思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・筆記テスト ・ワークシート			
②思考・判断・表現	・筆記テスト ・演奏表現 ・行動観察			
③主体的に学習に取り組む態度	・自己評価と相互評価 ・ノート ・行動観察			

〈授業計画〉

学 期	題 材	学習内容(到達度目標)
1学期	・身近な音楽 「校歌」「少年時代」 「夏の思い出」	①曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表す。 ②音色、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持つ。 ③身近な音楽に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。
	・キーボードアンサンブル 「威風堂々」	①曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能を身につけ、器楽で表す。 ②音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。 ③楽器の奏法を身につけることや楽曲の音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。
	・楽 典 音名、音程、反復記号 調号と臨時記号	①音名、音程に関する基礎的な知識・法則を理解する。 ③音名、音程や各種記号を学習することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。
	・筆記テスト	
2学期	・世界の歌、日本の歌 「Caro mio ben」(伊) 「Heidenroslein」(独) 「Yesterday」(英) 「この道」「ふるさと」 「小さな空」	①言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表す。 ②音色、音色、強弱等を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持つ。 ③歌詞の内容を理解し、曲にあった発声、フレーズを意識した表現の工夫をすることに関心をもち、音楽活動を主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。
	・テーブル・ミュージック (創作) 「Wind from the south」	①音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。また、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身につけ、創作で表す。 ②音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。
	・ギター演奏(創作) 「Scarborough Fair」 「Country Roads」 「Greensleeves」 ・トーンチャイム演奏	③ボディーパーカッションで音色を工夫したり、構成を工夫したりしながら、表したいイメージをもって作曲・演奏することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 ①曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造について理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表す。 ①音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身につけ、創作で表す。 ②音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。 ③楽器の音色や奏法に関心をもち、音楽活動を主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。
	・楽 典 音階、調号と調性、 音符と休符	①音階、音価に関する基礎的な知識・法則を理解する。 ③音階や音価を学習することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。
	・筆記テスト	
3学期	・日本の伝統音楽 (篠笛)	①曲想と楽器の音色や奏法及び音楽の構造、文化的・歴史的背景との関わりについて理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表す。 ②音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。 ③篠笛の音色や奏法の特徴、様々な日本の伝統芸能に興味関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組む。
	・楽 典 和音	①和音に関する基礎的な知識・法則を理解する。 ③和音を学習することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。
	・筆記テスト	

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
芸術	美術 I	1	2	選択必修
教科書	美術1(光村)			
使用教材				
学習概要 (目標・ねらい)	・美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・与えられた課題に向かって努力し、主体的に行動に移せる能力と精神を養う。 ・様々な道具の使い方や技法、美術史や郷土作家などについて学習し、制作活動に生かせる知識を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	材料や用具の特性を活かして表現方法を工夫して制作できたか。 対象をよく観察、またはイメージ化し、造形的な視点を養うことができたか。			実践力
②思考力・判断力・表現力	制作意図に応じて創意工夫し、よりよい方法・作品になるようにを模索したか。			創造力
③主体的に学習に取り組む態度	美術の意義、美術作品のよさや美しさを理解し、心豊かな生活や社会を創造する態度を身につけられたか。			自主性
評価の方法	・自分の思いや考えが表現できるよう構想を練り、形態や色彩を創意工夫することができたか。 ・また作品鑑賞では、自分の感じた事を文章などで表現することができたか。			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	オリエンテーション	・1年間の学習の取り組みについて理解する。 自己認識能力
	絵画 鉛筆を使ったスケッチ 「日常の風景」「顔」	・モチーフをしっかり観察することを意識し、集中して描く。 ・モチーフの形体や色、質感などの特徴を捉えて描く。 ・光の方向を意識して陰影をつけたり、形に添ってハッチングすることによって形態を立体的に表す。 実践力
	絵画 油彩画「静物画」 F8号	・油絵の具の基本的な使い方を学習する。 ・遠近法を理解し奥行きのある構図を考える。 ・色彩について学習する。 ・重色、混色について学習する。 ・描いた作品の造形的な美しさを感じ取り 実践力
	講評会	・他者の作品から良い部分を学習し今後に役立つ想像力を養う。 自主性
	工芸	・各地の伝統工芸についての興味関心を高める。 ・自然素材のもつ魅力と、作品に出る効果について理解を深める。 ・テーマやコンセプトを実現するように工夫したアイディアスケッチを仕上げる。
	映像メディア表現(ビデオ鑑賞)	・アニメーションの手法、歴史を学習する。 ・カメラについての歴史について学習する。 探究力
2学期	立体制作・デザイン	・使う場面や目的に合わせて形状を考えそれを実際に製作できる能力を ・ユニバーサルデザインについて理解する。 ・塑造(モデリング)と彫刻(カービング)について学習する。 ・使用する目的から、使いやすい形状を考え、スタイロフォームを使ってプロダクトデザインを実践する。 実践力 探究力
	絵画 油彩画「自画像」 F6号 発表会	・自分らしさをテーマに、自画像を描く ・色や、筆使いを工夫し、人の感情や、思い、状況を表現する方法を学ぶ。 ・作品を展示し、互いに講評を行う。 実践力
	彫刻	・スタイロフォームを素材とし、日常的なモチーフを再現する。 実践力
	作品講評会	・他者の作品から良い部分を学習し今後に役立つ想像力を養う。 自主性
	絵画 油彩画 「空想画(自己表現)」 F10号	・自己の内面を見つめ、主体的に主題を生成し、色彩や形体などの構想を練る。 ・油絵の具の使い方や特徴について理解し、重ね塗り、タッチ、マチエールなどを工夫し、思いを表現する。 ・混色、重色の効果を考えながら計画的に作業を進める。
	鑑賞(現代美術) 講評会	・他者の作品から良い部分を学習し今後に役立つ想像力を養う。 創造力
	鑑賞(富山県の作家)	・富山県ゆかりの作家などについて学習する。 自主性

令和7年度 年間指導計画

教科	科目	学年	単位数	必選別
芸術	書道 I	1	2	選択必修
教科書	書道 I (光村図書)			
使用教材				
学習概要 (目標・ねらい)	(1)「漢字の書」の学習 ・古典の臨書を通して様々な書風に触れ、表現技術を高め、創作に生かすことができる。 (2)「仮名の書」の学習 ・仮名の成り立ちを理解し、その美しさや表現技術を学びとることができる。 (3)「漢字仮名交じりの書」の学習 ・身近にあることばや詩文を題材に漢字と仮名の調和を図り、用具用材や、字形・文字の大きさ、全体構成等を工夫することで自分の意図に基づく表現をすることができる。			
評価の観点				
①知識・技能	日常生活における書の効用や、日本及び中国の書文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができる。			
②思考力・判断力・表現力	感性や想像力を働かせて書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、表現を工夫することができる。			
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活における書の効用や、日本及び中国の書文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができる。			
評価の方法	①日常の授業態度 ②「学習記録カード」の記入状況 ③提出作品 ④発問に対する回答の評価 ⑤実技試験・筆記試験			

〈授業計画〉

学期	単元	学習内容(到達度目標)
1学期	1 書写から書道へ ・書分野、書体について ・古典と臨書について 2 楷書の学習 ・孔子廟堂碑の鑑賞と臨書 ・九成宮醴泉銘の鑑賞と臨書	・中学校までの書写の学習を振り返る。 ・書写と書道の共通性と相違を理解し、書の世界を知る。 ・書分野、古典とその臨書、用具、運筆・用筆法について知り、学習の意義とその方法を理解する。
	・雁塔聖教序の鑑賞と臨書 ・顔氏家廟碑の鑑賞と臨書 ・鄭義下碑の鑑賞と臨書 ・牛擲像造記の鑑賞と臨書 ・楷書作品の創作	・代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの筆者や時代背景などを理解し、基本的な点画や線質の表現法と用筆・運筆の関係、書風など臨書学習により習得する。
	実技・筆記試験	・臨書の書風と漢字の持つ意の表現について理解する。
2学期	3 刻字の学習 ・表札の制作	・姓または名を板に刻し基本的な刻字の技法を習得する。
	4 隷書の学習 ・隷書の特徴 ・曹全碑の鑑賞と臨書	・隷書の特徴について理解を深める。 ・代表的な隷書古典である曹全碑を鑑賞・臨書し、隷書の基本的な用筆法を習得する。
	5 行書の学習 ・行書の特徴 ・蘭亭序の鑑賞と臨書 ・風信帖の鑑賞と臨書 6 仮名の書の学習 ・仮名の基本点画 ・平仮名の単体の練習	・行書の特徴について理解を深める。 ・代表的な行書古典である蘭亭序・風信帖を鑑賞・臨書し、行書の基本的な用筆法を習得する。 ・我が国独自の文字である仮名の書の成立過程と字源について理解を深める。 ・仮名の基本点画について理解する。 ・仮名の筆使いに慣れ基本的な用筆法を習得する。
	実技・筆記試験	
3学期	・連綿の練習 ・高野切第三種の鑑賞と臨書	・基本的な古典の鑑賞・臨書をととして仮名の書の美を理解する。
	7 漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字と仮名の調和 ・古典を基にしての作品づくり ・用筆、運筆の工夫 ・文字の大きさ、配置の工夫	・1・2学期の漢字及び仮名の学習を基に、漢字仮名交じりの書の創作をする。 ・詩文、形式、構成などを工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分なりに表現する。

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
外国語	英語コミュニケーション I	1	3	必修
教科書	Power On English Communication I [東京書籍]			
使用教材	学習者用デジタルブック Power on English Communication I [東京書籍]、WORDBOX[美誠社]			
学習の目標				
①知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。			
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。			
②思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
③主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・言語活動の取り組み状況の観察(②、③)			
②思考・判断・表現	・各Lesson Actionのパフォーマンス(②、③)			
③主体的に学習に取り組む態度	・上記課題等の提出(①、②、③) ・Part確認テスト、中間・期末考査、評価問題など(①、②)			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	オリエンテーション Lesson 1 Japan's New Tourism 中間考査	発音記号を見て発音することができる。 「ニューツーリズム」について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。
	Lesson 2 Light from Creatures Lesson 3 Routes to the Top 期末考査	いろいろな光る生き物についての話を読んで、その光る理由について理解し、生き物の生態について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。 スポーツクライマー野口啓代選手のインタビュー内容を読んで、トップアスリートの持つ資質について理解し、好きなスポーツ選手について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
2学期	Lesson 4 Left to Right, Right? Lesson 5 Banana Paper 中間考査	日本や海外のマンガの形式やその翻訳について読んで、日本のマンガやその形式について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。 バナナやバナナペーパー、バナナペーパープロジェクトについて読んで、バナナペーパー製品やバナナペーパーの販売促進について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えてることができる。
	Lesson 6 Patterns in Human Behavior Lesson 7 No Plastic or No Future 期末考査	人間の行動に関する心理学実験の手順や結果について読んで、人間の行動に関する話題や行動をコントロールする方法について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。 プラスチックごみによる海洋汚染について読んで、プラスチックごみに関する話題やごみを減らす対策について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。
3学期	Lesson 8 Oh My Cod! Lesson 9 Is E-sports a Real Sport? Lesson 10 Being Different Is Beautiful 期末考査	食料資源、フィッシュ・アンド・チップスの起源や歴史について読んで、食べ物やマグロ漁獲量の現状について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。 e スポーツの現状、利点や欠点について読んで、eスポーツやeスポーツの利点について理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。 写真家ヨシダナギさんの経験、過去と現在について読んで、ヨシダナギさんについて理解し、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
家庭	家庭基礎	1	2	必修
教科書	家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)			
使用教材	最新生活ハンドブック 資料&成分表			
学習の目標				
①知識・技能	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。			
②思考・判断・表現	・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。			
②思考・判断・表現	・生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			
③主体的に学習に取り組む態度	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、実習、授業での質問			
②思考・判断・表現	・発表、話し合い、作品製作、レポート			
③主体的に学習に取り組む態度	・ノート、レポート、自己評価シート、発言、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	「家庭基礎」を学ぶにあたって 食生活をつくる 1人の一生と食事 2栄養と食品 3食生活の安全のために 4食生活をデザインする	・食生活の問題について考え、栄養面や精神面への影響と重要性を理解することができる。 ・栄養素とその働き、それらを含む食品の栄養的特質と調理上の性質を理解することができる。 ・食品の鮮度・食中毒・添加物等について理解することができる。 ・必要な食事摂取基準について理解し、バランスのよい食事計画を考えることができる。
	5調理実習 衣生活をつくる 1人の一生と被服 2被服材料と管理 3これからの衣生活 ホームプロジェクトと家庭 クラブ活動 期末考査	・調理の基礎的技術を身につける。 ・被服の機能を理解し、着用目的に応じた選択と着装ができる。 ・被服の手入れや管理を理解し、環境に配慮した被服計画を考えることができる。 ・エシカルファッションに関心を持ち、持続可能な衣生活について考えることができる。 ・ホームプロジェクトと家庭クラブ活動について意義と実施方法について理解することができる。
2学期	これからの生き方と家族 1生涯の生活設計 2家族・家庭と社会との かかわり	・各ライフステージの特徴と課題を理解し、青年期をどのように生きるかを考えることができる。 ・家庭生活の多様性を理解し、仕事と生活の調和をめざし男女がどのように協力すればよいか考えることができる。
	次世代をはぐくむ 1子どもの発達 2子どもの生活 3子育て支援と福祉 充実した生涯へ 1超高齢社会を生きる 2高齢社会を支える ともに生きる 期末考査	・乳幼児の心身の発達の特徴、生活について理解することができる。 ・子どもの健やかな成長のために親や家族の果たす役割について考える。 ・子育ての問題や支援策を理解することができる。 ・高齢社会の現状と高齢者の心身の特徴を理解することができる。 ・高齢者の自立を支援する制度やサービスについて理解することができる。 ・社会保障制度のしくみを理解し、これからの共生社会について考える。 ・生活課題を発見し、解決方法を考え計画を立て、実践することができる。
3学期	住生活をつくる 1人の一生と住まい 2住生活の計画と選択	・家族の生活やライフステージに応じた住居の計画や選択ができる。 ・安全で快適、環境に配慮した住居や地域の住環境について考えることができる。
	経済生活をつくる 1私たちの暮らしと経済 2消費者問題を考える 3持続可能な社会をめざして 期末考査	・家庭経済と家計管理について理解することができる。 ・資源を考慮した意思決定と消費生活の課題、消費者信用の仕組みと問題を理解し、危険性を認識することができる。

令和7年度 年間指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	必選別
情報	情報 I	1	2	必修
教科書	高校情報 I Python			
使用教材	高校情報 I Python 学習ノート			
学習の目標				
①知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。			
②思考・判断・表現	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。			
③主体的に学習に取り組む態度	情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。			
評価の観点				
①知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。			
②思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。			
③主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。			
評価の方法				
①知識・技能	・定期考査、小テスト、授業での質問			
②思考・判断・表現	・実習、提出課題、発表、グループ活動、ワークシート			
③主体的に学習に取り組む態度	・実習、提出課題、発表、ワークシート、授業形態に応じた学習態度			

〈授業計画〉

学 期	単 元	学習内容(到達度目標)
1学期	第1章 情報社会 1 情報と情報社会 2 問題解決の考え方 3 法規による安全対策 4 個人情報とその取扱い 5 知的財産権の概要と産業財産権 6 著作権	情報や情報の特徴について理解する。 メディアとその特性について理解する。 問題解決の手順・手法について理解する。 情報セキュリティや法規による安全対策について理解する。 個人情報とプライバシー、活用について理解する。 知的財産権の概念や産業財産権について理解する。 著作権の利用、侵害について理解する
	第2章 情報デザイン 7 コミュニケーションとメディア 8 情報メディアの表現と工夫 プレゼンテーション 9 Webページと情報デザイン	コミュニケーションの形態の分類や手段の特性について理解する。 視覚的な表現の工夫について理解する。 プレゼンテーションの企画・評価について理解する。 Webサイトの設計やWebページの構成について理解する。 閲覧数を増やす工夫について理解する。
2学期	第3章 デジタル 10 デジタル情報の特徴 11 数値と文字の表現 12 演算の仕組み 13 音の表現 14 画像の表現 15 コンピュータの構成と動作 16 コンピュータの性能	アナログ・デジタル・デジタルデータの特徴について理解する。 数値の表現について理解する。 2進数で表された数値の計算について理解する。 音のデジタル化のしくみについて理解する。 光の三原色・色の三原色・解像度・階調について理解する。 コンピュータ内部の動作について理解する。 コンピュータにおける演算誤差について理解する。
	第4章 ネットワーク 17 ネットワークとプロトコル 18 インターネットの仕組み 19 Webページの閲覧とメールの送受信 20 情報システム 21 情報システムを支える データベースの仕組み 22 データベースの仕組み 23 個人による安全対策 24 安全のための情報技術	サーバの利用について理解する。 ネットワークの経路について理解する。 電子メールの送受信の仕組みについて理解する。 情報システムの例について理解する。 データベースとその役割について理解する。 リレーショナルデータベースの特徴・操作について理解する。 コンピュータウイルス、ウイルス対策ソフトについて理解する。 暗号化やデジタル署名について理解する。
3学期	第5章 問題解決 25 データの収集と整理 26 ソフトウェアを利用したデータの処理 27 統計量とデータの尺度 28 時系列分析と回帰分析 29 モデル化とシミュレーション	データの収集について理解する。 表計算ソフトウェアの関数の利用について理解する。 統計量とその計算方法について理解する。 時系列分析について理解する。 確定的モデル・確率的モデルについて理解する。
	第6章 プログラミング 30 アルゴリズムとプログラミング 31 プログラミングの基本 32 配列 33 関数 34 探索のプログラム 35 整列のプログラム	アルゴリズムとプログラミングについて理解する。 プログラムの基本構造(順次構造, 選択構造, 繰り返し構造)を理解する。 配列の仕組みについて理解する。 関数の機能について理解する。 探索プログラムの作成方法について理解する。 整列プログラムの作成について理解する。

令和7年度 年間指導計画

教 科		学 年	単位数	必選別
産業社会と人間		1	2	必修
学習概要 (目標・ねらい)	・進路を決定するにあたって、自分を知り、進路に関する幅広い知識を得る。 ・将来について考え、進路を切りひらく力をつける。 ・社会のしくみや問題点を知り、自分のあり方や生き方について考える。			
評価の観点 ①知識 技能	・実践力 自分の考えに基づき計画し、実行するちからを身に付ける。 ・協働力 他者と協力し、物事に取り組む態度を身に付ける。			
②思考力 判断力 表現力	・探究力 自ら課題を見つけ、知識・技能を活用し、その課題を解決する力を身に付ける。 ・発信力 自分の考えを分かりやすく他者に伝える方法を身に付ける。 ・創造力 新しいことや、もっとよいものにできないか考える力を身に付ける。			
③学びに向かう力 人間性	・自主性 自ら課題を見つけ、何事にも進んで取り組む態度を身に付ける。 ・人間関係 自分の知識や他者の意見を参考にして自分の行動を決定する力を身に付ける。 - 形成能力 ・自己管理 自分のやるべきことを理解し、目標を立てて実行する態度を身に付ける。 - 能力			
評価の方法	次の観点から総合的に評価する。 ① 知識・技能を生かし、計画を立て他者と協力して課題に取り組むことができる。 ② レポート作成や意見発表の場で他者により分かりやすく発信することができる。 ③ 他者の意見を参考に新たな目標に向かって意欲的に取り組むことができる。			

〈授業計画〉

学 期	活動内容
1学期	・オリエンテーション 科目「産業社会と人間」の進め方について理解する。 教務部・育成指導部・特活指導部より高校生活について説明を受ける。 ・コミュニケーション講座 他者とのコミュニケーションの取り方や集団づくりについて体験を通じて学ぶ。 ・系列・科目登録ガイダンス(1) 小杉高校の系列について理解を深める。 ・自己理解 自分史を作り、自らの特性について知り、進路を考えるうえの一助にする。 ・キャリア講演会 進学とその先の情報を伝え、自ら考え自ら歩む姿勢を育成する。 ・上級学校訪問 地域の大学・短大を見学することで、上級学校に対する意識を高める。
2学期	・地域課題についての講話 市や県の課題、問題について知り、現代社会のニーズについて考える。 ・系列・科目登録ガイダンス(2) 自分の能力、適性、進路等を踏まえ、系列選択を考える。 ・進路ガイダンス 様々な分野の学習内容について、理解を深める。 ・社会人班別講話 様々な分野の職場で活躍している方を講師として招き、その体験談を聴くことを通して、やりがいや苦勞を克服するための努力などについて考える。 ・キャリアパスポート 学校生活の取り組みを振り返り記録することで、3年後、10年後の自分の進路について考え、将来設計を立案する。 ・小論文講座 小論文とは何かを知り、基本的な技術を学ぶ。
3学期	・課題研究、課題研究発表 社会生活や職業生活における権利・義務や責任など、基本的な仕組みを理解する。 各自の力によって課題を見だし、調査・研究を通して問題解決能力を高める。 ・先輩に学ぶ 現在、上級学校に在学している卒業生から進路を切り開くための努力や心構えを聞き、今後の学校生活に活かす。